

大学番号 001

注3

設置年度 令和 元年度
計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

意見伺い

北海道大学大学院 国際食資源学院 国際食資源学専攻 (博士後期課程)

注2

【意見伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人北海道大学
令和3年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

大学院国際食資源学院

＜国際食資源専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	23
7. その他全般的事項	25

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 北海道大学

(2) 大学名 北海道大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒060-0809
北海道札幌市北区北9条西9丁目
〒041-8611
北海道函館市港町3の1の1

(〒060-0808：北海道札幌市北区北8条西5丁目)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	—	—	
学長	(ナワ トヨハル) 名和 豊春 (平成29年4月1日)	(ホウキン キヨヒロ) 寶金 清博 (令和2年10月1日)	R2. 6. 30前学長解任に伴う変更(2)
学院長	(イノウエ タカシ) 井上 京 (平成29年4月1日)		
専攻長	—	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
大学院国際食資源 国際食資源学専 （博士後期課程） 博士（食資源学	農学関係	3年	6人	— 年次人	18人	新規入学者を募集	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	0.83倍	-	
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
志願者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
受験者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
合格者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
B 入学者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]			
入学定員超過率 B/A					1.00		0.16		1.33						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	6 [4] (-)	- [-] (-)	1 [1] (-)	- [-] (-)	8 [5] (-)	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	6 [4] (-)	- [-] (-)	1 [1] (-)	[] ()	
3年次	/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	6 [4] (-)	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	6 [4] (-)	- [-] (-)	7 [5] (-)	- [-] (-)	15 [10] (-)	[] ()	

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	6人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	7人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
令和3年度	15人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{算出不可}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{算出不可}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<国際食資源学院 国際食資源学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	ワールドワーク科目 ワンダーフォーゲル実習Ⅵ	1・2・3通	2			5	7	3	1			
	小計(1科目)	-	2	0	0	5	7	3	1	0	0	
	演習・研究科目 食資源学演習Ⅲ	1～3通	4			6	7	3	1			
	食資源学研究Ⅱ	1～3通	8			6	7	3	1			
	小計(2科目)	-	12	0	0	6	7	3	1	0	0	
	合計(3科目)	-	14	0	0	6	7	3	1	0	0	
卒業要件及び履修方法												
必修科目14単位を修得し、かつ、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	ワールドワーク科目 ワンダーフォーゲル実習Ⅵ	1・2・3通	2			6	6	4	0			
	小計(1科目)	-	2	0	0	6	6	4	0	0	0	
	演習・研究科目 食資源学演習Ⅲ	1～3通	4			7	6	3	0			
	食資源学研究Ⅱ	1～3通	8			7	6	3	0			
	小計(2科目)	-	12	0	0	7	6	4	0	0	0	
	合計(3科目)	-	14	0	0	7	6	4	0	0	0	
卒業要件及び履修方法												
必修科目14単位を修得し、かつ、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	ワールドワーク科目 ワンダーフォーゲル実習Ⅵ	1・2・3通	2			6	7	3	0			
	小計(1科目)	-	2	0	0	6	7	3	0	0	0	
	演習・研究科目 食資源学演習Ⅲ	1～3通	4			7	7	3	0			
	食資源学研究Ⅱ	1～3通	8			7	7	3	0			
	小計(2科目)	-	12	0	0	7	7	3	0	0	0	
合計(3科目)			-	14	0	0	7	7	3	0	0	0
卒業要件及び履修方法												
必修科目14単位を修得し、かつ、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	ワールドワーク科目 ワンダーフォーゲル実習Ⅵ	1・2・3通	2			6	6	3	0			
	小計(1科目)	-	2	0	0	6	6	3	0	0	0	
	演習・研究科目 食資源学演習Ⅲ	1～3通	4			7	6	3	0			
	食資源学研究Ⅱ	1～3通	8			7	6	3	0			
	小計(2科目)	-	12	0	0	7	6	3	0	0	0	
合計(3科目)			-	14	0	0	7	6	3	0	0	0
卒業要件及び履修方法												
必修科目14単位を修得し、かつ、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・准教授1名の教授昇任、助教1名の准教授昇任のため、「ワンダーフォーゲル実習Ⅵ」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・准教授1名の教授昇任、助教1名の准教授昇任のため、「食資源学演習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授7」、「助教1」から「助教0」に変更。
- ・准教授1名の教授昇任、助教1名の准教授昇任のため、「食資源学研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授7」、「助教1」から「助教0」に変更。

【令和2年度】

- ・准教授1名退職のため、「ワンダーフォーゲル実習Ⅵ」の専任教員等の配置を「准教授7」から「准教授6」に変更。
- ・准教授1名退職のため、「食資源学演習Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授7」から「准教授6」に変更。
- ・准教授1名退職のため、「食資源学研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授7」から「准教授6」に変更。

【令和3年度】

- ・講師1名採用のため、「ワンダーフォーゲル実習Ⅵ」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師4」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	0 科目	0 科目	3 科目	3 科目 []	0 科目 []	0 科目 []	3 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{3} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考							
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体							
	校舎敷地	911,623 m ² 923,711 m² 923,757 m ² 923,867 m²	0 m ²	0 m ²	911,623 m ² 923,711 m² 923,757 m ² 923,867 m²	売却、借用地の増減による 修正(元) 売却、借用地の増減による 修正(2)							
	運動場用地	175,488 m ²	0 m ²	0 m ²	175,488 m ²	売却、借用地の増減による 修正(3)							
	小 計	1,087,111 m ² 1,099,199 m² 1,099,245 m ² 1,099,355 m²	0 m ²	0 m ²	1,087,111 m ² 1,099,199 m² 1,099,245 m ² 1,099,355 m²								
	そ の 他	659,139,036 m ² 659,128,500 m² 659,241,071 m ² 659,049,323 m²	0 m ²	0 m ²	659,139,036 m ² 659,128,500 m² 659,241,071 m ² 659,049,323 m²								
	合 計	660,226,147 m ² 660,227,699 m² 660,340,316 m ² 660,148,678 m²	0 m ²	0 m ²	660,226,147 m ² 660,227,699 m² 660,340,316 m ² 660,148,678 m²								
(2) 校 舎	専 用	620,515 m ² 624,056 m² 626,463 m ² 625,868 m ² (620,515 m ²) (624,056 m²) (626,463 m ²) (625,868 m²)	0 m ²	0 m ²	620,515 m ² 624,056 m² 626,463 m ² 625,868 m ² (620,515 m ²) (624,056 m²) (626,463 m ²) (625,868 m²)	大学全体 新営工事、改築、用途変更による修正(元) 新営・取壊し工事による 修正(2) 新営・取壊し工事による 修正(3)							
	共 用	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)								
(3) 教 室 等	講 義 室	1 室	演 習 室	2 室	実験実習室	4 室	情報処理学習施設	0 室	語学学習施設	0 室	(補助職員 人)	(補助職員 人)	
	専任教員研究室		新設学部等の名称				室 数						
		国際食資源学部国際食資源学専攻				16 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点						
	国際食資源学部 国際食資源学専攻	3,691,870 [1,725,320] 3,697,619 [1,724,259] 3,779,794 [1,785,208] 3,838,813 [1,788,390]	85,050 [36,992] 85,011 [37,025] 84,927 [36,999] 84,673 [37,105]	22,241 [20,768] 19,228 [17,865] 19,192 [17,833] 21,399 [20,170]	94,135 91,703 90,520 89,444	0	0						
		(3,691,870 [1,725,320]) (3,697,619 [1,724,259]) (3,779,794 [1,785,208]) (3,838,813 [1,788,390])	(85,050 [36,992]) (85,011 [37,025]) (84,927 [36,999]) (84,673 [37,105])	(22,241 [20,768]) (19,228 [17,865]) (19,192 [17,833]) (21,399 [20,170])	(94,135) (91,703) (90,520) (89,444)	(0)	(0)	学院単位での特定不能な ため、大学全体の数					
		(3,691,870 [1,725,320]) (3,697,619 [1,724,259]) (3,779,794 [1,785,208]) (3,838,813 [1,788,390])	(85,050 [36,992]) (85,011 [37,025]) (84,927 [36,999]) (84,673 [37,105])	(22,241 [20,768]) (19,228 [17,865]) (19,192 [17,833]) (21,399 [20,170])	(94,135) (91,703) (90,520) (89,444)	()	()	除却及び新規購入による 修正(元) 除却及び新規購入による 修正(2)					
	計	3,691,870 [1,725,320] 3,697,619 [1,724,259] 3,779,794 [1,785,208] 3,838,813 [1,788,390]	85,050 [36,992] 85,011 [37,025] 84,927 [36,999] 84,673 [37,105]	22,241 [20,768] 19,228 [17,865] 19,192 [17,833] 21,399 [20,170]	94,135 91,703 90,520 89,444	()	()	除却及び新規購入による 修正(3)					
(6) 図 書 館	面 積	33,772 m ² 33,715 m² 33,542 m ²	閱 覧 座 席 数	2,238 席 2,240 席 2,238 席 2,224 席	収 納 可 能 冊 数	427 万冊 426 万冊 425 万冊	学院単位での特定不能な ため、大学全体の数						
	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					図書室の拡張、座席の撤去、破損による修正(元) 座席の配置換え、本棚の 整理等による修正(2) 歯学部改修等に伴う面積の増、閲覧座席数の 減、収納可能冊数の増に よる修正(3)					
(7) 体 育 館	面 積	7,429 m ²	テニスコート(11)、野球場(3)、プール(2)、ホッケー・ハンドボール場(1)、陸上競技場(1)、サッカーラグビー場(1)、アメリカンフットボール・ラグビー場(1)、スポーツトレーニングセンター(1)、武道場(1)、剣道場(1)、弓道場(1)、洋弓場(1)、ラフ射撃場(1)、ボート艇庫(1)、ヨット艇庫(1)、馬場(1)、山小屋(5)										
	区 分		開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円						
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円						
	学生1人当たり 納付金	第1年次	千円	千円	第3年次	千円	千円	第5年次	千円	第6年次	千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要											

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	北海道大学						学生募集停止学科数	17	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	7	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
文学部	4	185	—	740	—	1.06	1.06	—	昭和25	—	
人文学科	4	185	—	740	学士(文学)	1.06	1.06	—	平成7	札幌市北区北10条西7丁目	
教育学部	4	50	③10	220	—	1.06	1.08	—	昭和24	—	
教育学科	4	50	③10	220	学士(教育学)	1.06	1.08	—	昭和24	札幌市北区北11条西7丁目	
法学部	4	200	②10/③10	850	—	1.05	1.06	—	昭和28	—	
法学課程	4	200	②10/③10	850	学士(法学)	1.05	1.06	—	昭和49	札幌市北区北9条西7丁目	
経済学部	4	190	—	760	—	1.04	1.03	—	昭和28	—	
経済学科	4	100	—	400	学士(経済学)	1.04	1.04	—	昭和28	札幌市北区北9条西7丁目	
経営学科	4	90	—	360	学士(経営学)	1.04	1.03	—	昭和41	同上	
理学部	4	300	—	1200	—	1.03	1.00	—	昭和24	—	
数学科	4	50	—	200	学士(理学)	1.02	1.02	—	平成7	札幌市北区北10条西8丁目	
物理学科	4	35	—	140	学士(理学)	1.03	1.00	—	平成6	同上	
化学科	4	75	—	300	学士(理学)	1.04	1.00	—	平成7	同上	
生物科学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.05	1.01	—	平成5	同上	
地球惑星科学科	4	60	—	240	学士(理学)	1.01	1.00	—	平成6	同上	
医学部	—	287	②5	1387	—	—	1.01	—	昭和24	—	
医学科	6	107	②5	667	学士(医学)	1.00	1.00	令和2	昭和24	札幌市北区北15条西7丁目	
保健学科	4	180	—	720	学士(看護学/保健学)	1.02	1.02	—	平成16	札幌市北区北12条西5丁目	
歯学部	6	53	—	318	—	0.99	1.00	—	昭和42	—	
歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	0.99	1.00	—	昭和42	札幌市北区北13条西7丁目	
薬学部	—	80	—	380	—	—	1.02	—	昭和40	—	
薬科学科	4	50	—	200	学士(薬科学)	1.03	1.02	—	平成18	札幌市北区北12条西6丁目	
薬学科	6	30	—	180	学士(薬学)	1.01	1.03	—	平成18	同上	
工学部	4	670	③10	2700	—	1.02	1.01	—	昭和24	—	
応用理工系学科	4	160	—	640	学士(工学)	1.03	1.01	—	平成17	札幌市北区北13条西8丁目	編入学定員は4学科共通であるため、各学科の収容定員には含めていない
情報工学分野学科	4	180	—	720	学士(工学)	1.02	1.01	—	平成17	同上	
機械知能工学科	4	120	—	480	学士(工学)	1.02	1.00	—	平成17	同上	
環境社会工学科	4	210	—	840	学士(工学)	1.01	1.01	—	平成17	同上	
農学部	4	215	—	860	—	1.01	1.00	—	昭和24	—	
生物資源科学科	4	36	—	144	学士(農学)	1.02	1.02	—	平成4	札幌市北区北9条西9丁目	
応用生命科学科	4	30	—	120	学士(農学)	1.00	1.00	—	平成4	同上	
生物機能化学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.01	1.00	—	平成4	同上	
森林科学科	4	36	—	144	学士(農学)	1.01	1.02	—	平成4	同上	
畜産科学科	4	23	—	92	学士(農学)	1.01	1.00	—	平成4	同上	
生物環境工学科	4	30	—	120	学士(農学)	1.00	1.00	—	昭和24	同上	
農業経済学科	4	25	—	100	学士(農学)	1.01	1.00	—	昭和24	同上	
獣医学部	6	40	—	240	—	1.05	1.05	—	昭和27	—	
共同獣医学課程	6	40	—	240	学士(獣医学)	1.05	1.05	—	平成24	札幌市北区北18条西9丁目	
水産学部	4	215	—	860	—	1.01	1.01	—	昭和24	—	
海洋生物科学科	4	54	—	216	学士(水産学)	1.01	1.01	—	平成18	函館市港町3丁目1番1号	
海洋資源科学科	4	53	—	212	学士(水産学)	1.01	1.01	—	平成18	同上	
増殖生命科学科	4	54	—	216	学士(水産学)	1.01	1.01	—	平成18	同上	
資源機能化学科	4	54	—	216	学士(水産学)	1.01	1.01	—	平成18	同上	
大学全体	—	2,485	45	10,515	—	—	—	—	—	—	

文学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	昭	和28	—	令和元年学生募集停止
思想文化学専攻 M	2	—	—	—	修士(文学)	—	—	—	平	成12	札幌市北区北10条西7丁目	
思想文化学専攻 D	3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—	平	成12	同上	
歴史地域文化学専攻 M	2	—	—	—	修士(文学/学術)	—	—	—	平	成12	同上	
歴史地域文化学専攻 D	3	—	—	—	博士(文学/学術)	—	—	—	平	成12	同上	
言語文学専攻 M	2	—	—	—	修士(文学)	—	—	—	平	成12	同上	
言語文学専攻 D	3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—	平	成12	同上	
人間システム科学専攻 M	2	—	—	—	修士(文学)	—	—	—	平	成12	同上	
人間システム科学専攻 D	3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—	平	成12	同上	
法学研究科	—	85	—	235	—	—	—	—	昭	和28	—	
法学政治学専攻 M	2	20	—	40	修士(法学)	0.85	0.70	—	平	成12	札幌市北区北9条西7丁目	
法学政治学専攻 D	3	15	—	45	博士(法学)	0.33	0.33	—	平	成12	同上	
法律実務専攻 P	3	50	—	150	法務博士(専門職)	0.54	0.52	—	平	成16	同上	
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	昭	和30	—	平成29年学生募集停止
医科学専攻 M	2	—	—	—	修士(医科学)	—	—	—	平	成14	札幌市北区北15条西7丁目	
医学専攻 D	4	—	—	—	博士(医学)	—	—	—	平	成19	同上	
情報科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	平	成16	—	令和元年学生募集停止
情報理工学専攻 M	2	—	—	—	修士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成26	札幌市北区北14条西9丁目	
情報理工学専攻 D	3	—	—	—	博士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成26	同上	
情報エレクトロニクス専攻 M	2	—	—	—	修士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
情報エレクトロニクス専攻 D	3	—	—	—	博士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
生命人間情報科学専攻 M	2	—	—	—	修士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
生命人間情報科学専攻 D	3	—	—	—	博士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
ITネットワーク専攻 M	2	—	—	—	修士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
ITネットワーク専攻 D	3	—	—	—	博士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
システム情報科学専攻 M	2	—	—	—	修士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
システム情報科学専攻 D	3	—	—	—	博士(工学/情報科学)	—	—	—	平	成16	同上	
水産科学院	—	125	—	285	—	—	—	—	平	成17	—	
海洋生物資源科学専攻 M	2	55	—	110	修士(水産科学)	0.87	0.96	—	平	成17	函館市港町3丁目1番1号	令和2年定員変更(12)
海洋生物資源科学専攻 D	3	9	—	27	博士(水産科学)	0.63	0.77	—	平	成17	同上	令和2年定員変更(△8)
海洋応用生命科学専攻 M	2	59	—	118	修士(水産科学)	1.05	1.10	—	平	成17	同上	令和2年定員変更(12)
海洋応用生命科学専攻 D	3	10	—	30	博士(水産科学)	0.68	0.80	—	平	成17	同上	令和2年定員変更(△8)
環境科学院	—	222	—	507	—	—	—	—	平	成17	—	
環境起学専攻 M	2	44	—	88	修士(環境科学)	0.58	0.54	—	平	成17	札幌市北区北10条西5丁目	
環境起学専攻 D	3	15	—	45	博士(環境科学)	0.59	0.60	—	平	成17	同上	
地球圏科学専攻 M	2	35	—	70	修士(環境科学)	0.98	1.05	—	平	成17	同上	
地球圏科学専攻 D	3	14	—	42	博士(環境科学)	0.54	0.35	—	平	成17	同上	
生物圏科学専攻 M	2	52	—	104	修士(環境科学)	1.38	1.23	—	平	成17	同上	
生物圏科学専攻 D	3	23	—	69	博士(環境科学)	0.58	0.73	—	平	成17	同上	
環境物質科学専攻 M	2	28	—	56	修士(環境科学)	0.89	0.75	—	平	成17	同上	
環境物質科学専攻 D	3	11	—	33	博士(環境科学)	0.63	0.36	—	平	成17	同上	
理学院	—	182	—	419	—	—	—	—	平	成18	—	
数学専攻 M	2	44	—	88	修士(理学)	0.80	0.77	—	平	成18	札幌市北区北10条西8丁目	令和元年定員変更(△2)
数学専攻 D	3	16	—	48	博士(理学)	0.64	0.75	—	平	成18	同上	令和元年定員変更(△1)
物性物理学専攻 M	2	24	—	48	修士(理学)	0.83	0.83	—	平	成18	同上	
物性物理学専攻 D	3	10	—	30	博士(理学)	0.56	0.50	—	平	成18	同上	
宇宙理学専攻 M	2	20	—	40	修士(理学)	0.90	0.80	—	平	成18	同上	
宇宙理学専攻 D	3	9	—	27	博士(理学)	0.99	0.44	—	平	成18	同上	
自然科学専攻 M	2	39	—	78	修士(理学)	1.21	1.12	—	平	成18	同上	
自然科学専攻 D	3	20	—	60	博士(理学)	0.68	0.50	—	平	成18	同上	
農学院	—	178	—	392	—	—	—	—	平	成18	—	
共生基盤学専攻 M	2	—	—	—	修士(農学)	—	—	—	平	成18	札幌市北区北9条西9丁目	
共生基盤学専攻 D	3	—	—	—	博士(農学)	—	—	—	平	成18	同上	
生物資源科学専攻 M	2	—	—	—	修士(農学)	—	—	—	平	成18	同上	
生物資源科学専攻 D	3	—	—	—	博士(農学)	—	—	—	平	成18	同上	令和元年学生募集停止
応用生物科学専攻 M	2	—	—	—	修士(農学)	—	—	—	平	成18	同上	

応用生物科学専攻 D	3	—	—	—	博士(農学)	—	—	—	平成18	同上	
環境資源学専攻 M	2	—	—	—	修士(農学)	—	—	—	平成18	同上	
環境資源学専攻 D	3	—	—	—	博士(農学)	—	—	—	平成18	同上	
農学専攻 M	2	142	—	284	修士(農学)	1.20	1.30	—	令和元	同上	
農学専攻 D	3	36	—	108	博士(農学)	1.08	0.72	—	令和元	同上	
生命科学院	—	182	—	420	—	—	—	—	平成18	—	
生命科学専攻 M	2	116	—	232	修士(生命科学/薬科学)	0.87	0.87	—	平成18	札幌市北区北10条西8丁目	
生命科学専攻 D	3	38	—	114	博士(生命科学/薬科学)	0.70	0.55	—	平成18	同上	平成30年定員変更(△8)
臨床薬学専攻 D	4	6	—	24	博士(臨床薬学)	0.74	0.66	—	平成24	同上	平成30年定員変更(2)
ソフトウェア専攻 M	2	16	—	32	修士(ソフトウェア科学)	1.21	1.06	—	平成30	同上	
ソフトウェア専攻 D	3	6	—	18	博士(ソフトウェア科学)	1.77	2.33	—	平成30	同上	
教育学院	—	66	—	153	—	—	—	—	平成19	—	
教育学専攻 M	2	45	—	90	修士(教育学)	0.86	0.93	—	平成19	札幌市北区北11条西7丁目	
教育学専攻 D	3	21	—	63	博士(教育学)	0.86	0.47	—	平成19	同上	
国際広報・IT・観光学院	—	59	—	130	—	—	—	—	平成19	—	
国際広報・IT専攻 M	2	—	—	—	修士(国際広報・IT/学術)	—	—	—	平成19	札幌市北区北17条西8丁目	
国際広報・IT専攻 D	3	—	—	—	博士(国際広報・IT/学術)	—	—	—	平成19	同上	令和元年学生募集停止
観光創造専攻 M	2	—	—	—	修士(観光学)	—	—	—	平成19	同上	
観光創造専攻 D	3	—	—	—	博士(観光学)	—	—	—	平成19	同上	
国際広報・IT・観光学専攻 M	2	47	—	94	修士(国際広報・IT/観光学/学術)	1.05	1.04	—	令和元	同上	
国際広報・IT・観光学専攻 D	3	12	—	36	博士(国際広報・IT/観光学/学術)	1.16	1.00	—	令和元	同上	
保健科学院	—	50	—	110	—	—	—	—	平成20	—	
保健科学専攻 M	2	40	—	80	修士(保健科学/看護学)	1.36	1.35	—	平成20	札幌市北区北12条西5丁目	
保健科学専攻 D	3	10	—	30	博士(保健科学/看護学)	1.60	2.00	—	平成22	同上	
工学院	—	395	—	859	—	—	—	—	平成22	—	
応用物理学専攻 M	2	33	—	66	修士(工学)	1.09	1.06	—	平成22	札幌市北区北13条西8丁目	
応用物理学専攻 D	3	9	—	27	博士(工学)	0.55	0.11	—	平成22	同上	
材料科学専攻 M	2	39	—	78	修士(工学)	1.18	1.17	—	平成22	同上	
材料科学専攻 D	3	7	—	21	博士(工学)	1.42	1.14	—	平成22	同上	
機械宇宙工学専攻 M	2	27	—	54	修士(工学)	1.11	1.22	—	平成22	同上	
機械宇宙工学専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	0.40	—	平成22	同上	
人間機械システムデザイン専攻 M	2	26	—	52	修士(工学)	1.05	0.96	—	平成22	同上	
人間機械システムデザイン専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	0.73	0.40	—	平成22	同上	
IT・環境システム専攻 M	2	26	—	52	修士(工学)	1.09	1.07	—	平成22	同上	
IT・環境システム専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	0.20	—	平成22	同上	
量子理工学専攻 M	2	20	—	40	修士(工学)	1.40	1.50	—	平成22	同上	
量子理工学専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	0.93	1.00	—	平成22	同上	
環境フィールド工学専攻 M	2	24	—	48	修士(工学)	1.20	1.08	—	平成22	同上	
環境フィールド工学専攻 D	3	6	—	18	博士(工学)	1.05	0.83	—	平成22	同上	
北方圏環境政策工学専攻 M	2	26	—	52	修士(工学)	1.09	1.07	—	平成22	同上	
北方圏環境政策工学専攻 D	3	7	—	21	博士(工学)	0.61	0.42	—	平成22	同上	
建設都市空間デザイン専攻 M	2	22	—	44	修士(工学)	1.20	1.13	—	平成22	同上	
建設都市空間デザイン専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	1.26	1.00	—	平成22	同上	
空間性能システム専攻 M	2	27	—	54	修士(工学)	0.94	0.81	—	平成22	同上	
空間性能システム専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	0.53	0.60	—	平成22	同上	
環境創生工学専攻 M	2	28	—	56	修士(工学)	0.94	0.96	—	平成22	同上	
環境創生工学専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	0.93	0.40	—	平成22	同上	
環境循環システム専攻 M	2	18	—	36	修士(工学)	1.35	1.27	—	平成22	同上	
環境循環システム専攻 D	3	5	—	15	博士(工学)	1.53	1.20	—	平成22	同上	
共同資源工学専攻 M	2	10	—	20	修士(工学)	1.10	1.20	—	平成29	同上	
総合化学院	—	167	—	372	—	—	—	—	平成22	—	
総合化学専攻 M	2	129	—	258	修士(総合化学)	1.19	1.24	—	平成22	札幌市北区北13条西8丁目	
総合化学専攻 D	3	38	—	114	博士(理学/工学/総合化学)	1.16	0.89	—	平成22	同上	
経済学院	—	63	—	134	—	—	—	—	昭和28	—	
現代経済経営専攻 M	2	35	—	70	修士(経済学/経営学)	1.04	0.91	—	平成12	札幌市北区北9条西7丁目	
現代経済経営専攻 D	3	8	—	24	博士(経済学/経営学)	1.00	1.00	—	平成12	同上	

会計情報専攻 P	2	20	—	40	会計修士(専門職)	0.90	0.75	—	平成17	同上	
医学院	—	110	—	400	—	—	—	—	平成29	—	
医科学専攻 M	2	20	—	40	修士(医科学/公衆衛生学)	1.05	1.05	—	平成29	札幌市北区北15条西7丁目	
医学専攻 D	4	90	—	360	博士(医学)	1.06	0.98	—	平成29	同上	
歯学院	—	40	—	160	—	—	—	—	昭和49	—	
口腔医学専攻 D	4	40	—	160	博士(歯学)	0.99	0.85	—	平成12	札幌市北区北13条西7丁目	平成29年定員変更(△2)
獣医学院	—	16	—	64	—	—	—	—	昭和28	—	
獣医学専攻 D	4	16	—	64	博士(獣医学)	0.67	0.56	—	平成7	札幌市北区北18条西9丁目	平成29年定員変更(△8)
医理工学院	—	17	—	39	—	—	—	—	平成29	—	
医理工学専攻 M	2	12	—	24	修士(医理工学)	1.08	0.91	—	平成29	札幌市北区北15条西7丁目	
医理工学専攻 D	3	5	—	15	博士(医理工学)	1.00	0.80	—	平成29	同上	
国際感染症学院	—	12	—	48	—	—	—	—	平成29	—	
感染症学専攻 D	4	12	—	48	博士(感染症学/獣医学)	1.10	1.16	—	平成29	札幌市北区北18条西9丁目	
国際食資源学院	—	21	—	48	—	—	—	—	平成29	—	
国際食資源学専攻 M	2	15	—	30	修士(食資源学)	1.06	1.06	—	平成29	札幌市北区北9条西9丁目	
国際食資源学専攻 D	3	6	—	18	博士(食資源学)	0.83	1.33	—	令和元	同上	
文学院	—	125	—	285	—	—	—	—	令和元	—	
人文学専攻 M	2	71	—	142	修士(文学/学術)	1.01	1.00	—	令和元	札幌市北区北10条西7丁目	
人文学専攻 D	3	28	—	84	博士(文学/学術)	0.89	0.64	—	令和元	同上	
人間科学専攻 M	2	19	—	38	修士(人間科学)	1.10	1.15	—	令和元	同上	
人間科学専攻 D	3	7	—	21	博士(人間科学)	1.28	1.28	—	令和元	同上	
情報科学院	—	222	—	487	—	—	—	—	令和元	—	
情報科学専攻 M	2	179	—	358	修士(情報科学)	1.08	1.07	—	令和元	札幌市北区北14条西9丁目	
情報科学専攻 D	3	43	—	129	博士(工学/情報科学)	0.91	0.86	—	令和元	同上	
公共政策学教育部	—	30	—	60	—	—	—	—	平成17	—	
公共政策学専攻 P	2	30	—	60	公共政策学修士(専門職)	1.09	1.03	—	平成17	札幌市北区北9条西7丁目	
大学院全体	—	2,367	—	5,607	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<国際食資源学院 国際食資源学専攻(博士後期課程)>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高橋 昌志 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	山田 敏彦 <平成31年4月> 農学博士
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	井上 京 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	久保田 肇 <平成31年4月> Ph. D. in Economics (米国)
		食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	曾根 輝雄 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	松石 隆 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	武田 晴治 <平成31年4月> 博士(薬学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	石井 一暢 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	内田 義崇 <平成31年4月> Ph. D. in Environmental Biogeochemistry (ニュージーランド)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	川口 俊一 <平成31年4月> 博士(地球環境科学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高橋 昌志 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	山田 敏彦 <平成31年4月> 農学博士
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	井上 京 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	久保田 肇 <平成31年4月> Ph. D. in Economics (米国)
		食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	曾根 輝雄 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	松石 隆 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	武田 晴治 <平成31年4月> 博士(薬学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	石井 一暢 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	内田 義崇 <平成31年4月> Ph. D. in Environmental Biogeochemistry (ニュージーランド)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	川口 俊一 <平成31年4月> 博士(地球環境科学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高橋 昌志 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	山田 敏彦 <平成31年4月> 農学博士
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	井上 京 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	久保田 肇 <平成31年4月> Ph. D. in Economics (米国)
		食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	曾根 輝雄 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	松石 隆 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	石井 一暢 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	内田 義崇 <平成31年4月> Ph. D. in Environmental Biogeochemistry (ニュージーランド)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	川口 俊一 <平成31年4月> 博士(地球環境科学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高橋 昌志 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	山田 敏彦 <平成31年4月> 農学博士
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	井上 京 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	久保田 肇 <平成31年4月> Ph. D. in Economics (米国)
		食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	曾根 輝雄 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	教授	松石 隆 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	石井 一暢 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	内田 義崇 <平成31年4月> Ph. D. in Environmental Biogeochemistry (ニュージーランド)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	川口 俊一 <平成31年4月> 博士(地球環境科学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	小林 国之 <平成31年4月> 博士(農学)	専	准教授	小林 国之 <平成31年4月> 博士(農学)	専	准教授	小林 国之 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	鍋島 孝子 <平成31年4月> Doctorat en science politique (フランス)	専	教授	鍋島 孝子 <令和元年7月> Doctorat en science politique (フランス)	専	教授	鍋島 孝子 <令和元年7月> Doctorat en science politique (フランス)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	准教授	加藤 知道 <平成31年4月> 博士(理学)	専	准教授	加藤 知道 <平成31年4月> 博士(理学)	専	准教授	加藤 知道 <平成31年4月> 博士(理学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	講師	高牟禮 逸朗 <平成31年4月> 博士(農学)	専	講師	高牟禮 逸朗 <平成31年4月> 博士(農学)	専	講師	高牟禮 逸朗 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	講師	柏木 淳一 <平成31年4月> 博士(農学)	専	講師	柏木 淳一 <平成31年4月> 博士(農学)	専	講師	柏木 淳一 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	講師	齋藤 陽子 <平成31年4月> 博士(農学)	専	講師	齋藤 陽子 <平成31年4月> 博士(農学)	専	講師	齋藤 陽子 <平成31年4月> 博士(農学)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
専	助教	高須賀 太一 <平成31年4月> Ph. D. in Biological Sciences (米国)	専	准教授	高須賀 太一 <平成31年4月> Ph. D. in Biological Sciences (米国)	専	准教授	高須賀 太一 <平成31年4月> Ph. D. in Biological Sciences (米国)
		ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II			ワンダーフォーゲル実習VI 食資源学演習III 食資源学研究II
						専	講師	BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA <令和3年4月> 博士(生命科学)
								ワンダーフォーゲル実習VI

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・(専)高須賢助教 平成31年4月准教授昇任(平成31年1月教員審査済)。
- ・(専)鍋島孝子准教授 令和元年7月教授昇任(令和元年6月教員審査済)。

【令和2年度】

- ・(専)武田晴治准教授 令和2年3月退職
「ワンダーフォーゲル実習Ⅵ」「食資源学演習Ⅲ」「食資源学研究Ⅱ」については、同じ研究分野の教員が当該科目担当及び研究指導を行うため、支障はない。

【令和3年度】

- ・(専)BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA講師 令和3年4月就任(令和3年1月教員審査済)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
6	7	3	1	17	0	7	6	4	0	17	0
(6)	(8)	(3)	(0)	(17)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
16	1	0				16	1	0			
(16)	(1)	(0)				(16)	(1)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
7	6	4	0	17	0	7	6	4	0	16	0
[1]	[Δ1]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[1]	[Δ1]	[Δ1]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
16	1	0				15	1	0			
[0]	[0]	[0]				[Δ1]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{17} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{17} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{算出不可}} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
							該当なし
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	武田 晴治	R元. 12	必修	ワンダーフォーゲル実習VI	①	R2. 4. 1付け他大学採用のため辞任 (2)
				必修	食資源学演習Ⅲ	①	
				必修	食資源学研究Ⅱ	①	
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)	
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1 人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{17} = \boxed{5.88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
						該当なし		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	入学する学生が分かりやすいよう、本専攻における博士論文及び論文審査の英語の使用について、明確にすること。	遵守事項	平成31年度博士後期課程の募集要項(資料①)に「国際食資源学院の教育は全て英語で行われる」、入学希望者向けガイドブック(資料②)に「すべて英語で学ぶ」と記載されている。 遵守事項でいう「博士論文及び論文審査の英語の使用」等、教育の詳細は、ホームページ(資料③)に「講義等はすべて英語で行います。博士論文や修士論文等とその審査も英語によります。」と掲載した。 さらに、入学時に配付する大学院学生便覧(資料④)に博士學位論文の提出は「學位論文(英文)、學位論文内容の要旨(英文)」と明確に記載した博士學位論文審査取扱内規を掲載している。	履行中
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院国際食資源学院 国際食資源学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>1. 大学全体の取組み</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>高等教育推進機構高等教育研修センター会議 高等教育推進機構高等教育研修センターFD連絡会 高等教育推進機構高等教育研修センター共同利用運営委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>高等教育推進機構高等教育研修センターFD連絡会(12/21, 20名) 高等教育推進機構高等教育研修センター共同利用運営委員会(持ち回り)(3/10-3/18, 14名)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FDに関する情報の交換及び共有に関すること。 FDの企画立案に関すること。 その他北海道大学におけるFDの実施に関すること。 センター長が全学的な視点から検討が必要であると認めた事項について意見交換を行う。 高等教育研修センターの共同利用の運営方針に関する事項その他共同利用の実施に関する重要事項を調査審議する。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 本学教職員を対象としたFD・SDの実施</p> <p>b 実施方法 ワークショップ形式、講義形式、オンライン配信、講演会等の本学教職員を対象としたFD・SDの実施</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p>

【FD関係】

- 学生はオンライン授業をどう受け止めているのか① (7/9, 北大92名, 北大以外114名)
- 学生はオンライン授業をどう受け止めているのか② (7/16, 北大63名, 北大以外54名)
- 働き方を変えるタイムマネジメント研修 (8/24, 北大19名, 北大以外11名)
- 発達障害のある学生の理解と対応～コロナ禍における修学支援～ (9/4, 北大44名, 北大以外63名)
- withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか① (9/15, 北大62名)
- withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか② (9/18, 北大60名)
- withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか③ (9/24, 北大49名)
- 北海道大学における国際オンライン授業の現在と未来 (11/9, 北大78名, 北大以外28名)
- 英語によるビジネスコミュニケーション研修 (11/30, 北大7名, 北大以外3名)
- ワンランク上のオンライン授業実践講習会 (12/5, 北大9名, 北大以外4名)
- オンライン授業のためのシラバス作成研修 (12/5, 北大7名, 北大以外3名)
- ルーブリック評価作成ワークショップ (12/12, 北大6名, 北大以外7名)
- 授業がスムーズに進むオンラインコミュニケーション研修 (12/12, 北大22名, 北大以外20名)
- 精神障害のある学生の理解と対応～コロナ禍における修学支援～ (1/18, 北大43名, 北大以外44名)
- 英文Eメールライティング研修 (初級) (1/27, 北大4名, 北大以外9名)
- 英文Eメールライティング研修 (中級) (1/28, 北大7名, 北大以外6名)
- 英語によるビジネスコミュニケーション研修 (2/2, 北大3名, 北大以外4名)
- ワンランク上のオンライン授業実践講習会 (2/4, 北大4名, 北大以外8名)
- ワンランク上のオンライン授業実践講習会 (2/9, 北大8名, 北大以外8名)
- 受講生250名のハイブリッド授業の実践例～大人数講義科目の標準を探る～ (3/5, 北大59名, 北大以外108名)
- ハイブリッド授業の質をどう高めていくか～学生, 教員アンケートの結果を基に考える～ (3/23, 北大59名, 北大以外73名)
- オンライン国際共同教育のつくり方 (3/29, 北大42名, 北大以外98名)
- (e-learning (オンデマンド配信))
- シラバスのブラッシュアップ研修 (4/1-3/31, 北大117名)
- 講演会「キャンパスにおけるハラスメントをとらえる視点と予防の重要性～学生に対するハラスメント編」 (4/1-3/31, 北大193名)
- 講演会「アクティブラーニングの正しい理解」 (4/1-3/31, 北大187名)
- 講演会「現代の学生理解～学生相談室から見る学生の悩みと成長～」 (4/1-3/31, 北大28名)
- ハラスメント防止研修会 (4/1-3/31, 北大294名)
- エダズ (4/1-3/31, 北大61名)
- 「学生はオンライン授業をどう受け止めているのか」 (10/21-3/31, 北大294名)
- 発達障害のある学生の理解と対応～コロナ禍における修学支援～ (10/21-3/31, 北大120名)
- 「withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか」① (10/21-3/31, 北大174名)
- 「withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか」② (10/21-3/31, 北大85名)
- 「withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか」③ (10/21-3/31, 北大66名)
- ルーブリック評価2020 (10/21-3/31, 北大145名)
- オンライン授業のためのシラバス作成研修 (12/5-3/31, 北大115名)
- 精神障害のある学生の理解と対応 (1/18-3/31, 北大83名)
- 受講生250名のハイブリッド授業の実践例 (3/5-3/31, 北大38名)

【SD関係】

- 情報セキュリティ及び個人情報保護eラーニング研修 (4/1-3/31, 全教職員向け)
- 附属図書館新任担当者実務研修 (4/6-4/7, 北大27名)
- 附属図書館新任研修 (4月, 北大6名)
- 新任管理職研修 (4/23, 北大18名)

北海道地区国立大学法人等初任職員研修(5/13-15, 北大42名, 北大以外30名)
 事務職員英会話研修(中級)(5/15-7/17, 北大6名)
 初任事務職員英語研修(5/19-7/8, 北大37名)
 研究活動に関する不正防止研修(7/1-3/31, 研究活動に従事する教職員向け)
 研究費の使用に関する学内ルール研修(7/1-3/31, 研究活動に従事する教職員向け)
 事務職員オンライン英語学習支援事業(8/1-1/31, 北大54名)
 事務職員英会話スクール利用学習支援事業(8/1-12/31, 北大10名)
 技術職員の自己研鑽による英語学習支援事業(8/1-1/31, 北大20名)
 簿記資格取得支援事業(8/3-11/15, 北大12名)
 北海道地区国立大学法人等中堅職員研修(8/31-9/2, 北大43名, 北大以外21名)
 TOEIC-IPテスト(希望者)(1回目)(8/17-8/26, 北大20名)
 事務職員TOEICスコアアップ研修(9/9-12/9, 北大11名)
 事務職員英会話スキルアップ研修(9/24-12/10, 北大6名)
 事務職員TOEICスコアアップ集中講座(9/24, 10/22, 11/26, 北大14名)
 事務職員英会話研修(上級)(10/9-12/11, 北大7名)
 北海道地区国立大学法人等係長研修(10/12-10/14, 北大14名, 北大以外23名)
 初任事務職員フォローアップ研修(10/16, 北大37名)
 事務職員ビジネスライティング(Eメール)研修(11/5-6, 北大16名)
 アイヌ民族に関する理解を深めるための研修(11/18, 12/17, 教職員(管理職))
 個人情報保護研修会(11/24-1/29, 全教職員向け)
 事務職員業務効率化講座(11/24, 11/27, 12/4, 北大82名)
 会計実務研修(12/17-12/18, 北大22名)
 北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会(12/18-3月, 北大3名, 北大以外10名)
 事務情報化e-ラーニング講習会(1/4-3/26, 北大79名, 北大以外26名)
 TOEIC-IPテスト(希望者)(2回目)(1/25-2/5, 北大19名)

(通年)

民間研修等派遣支援事業(北大1名)
 自己研鑽取組支援事業(北大12名)

(大学院生対象)

一学期全学教育科目に係るTA研修会(4/6-5/8, 北大128名)
 令和2年度二学期全学教育科目に係るTA/TF合同研修(TA)(9/14-9/18, 北大86名)
 令和3年度二学期全学教育科目に係るTA/TF合同研修(TF)(9/14-9/18, 北大39名)
 令和2年度北海道大学TF研修会(3/9, 北大51名)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各FD終了後にアンケートを実施し、参加者の傾向や満足度等を分析し、次回以降の同行事の改善に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全学教育科目に係る学生による授業アンケートを実施している。毎年度、第1学期と第2学期に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学教育科目に係る学生による授業アンケート報告書を作成し、高等教育推進機構のホームページに公表している。

第1学期と第2学期のデータを併せて1年分の結果を教員本人と教員の所属部署長、科目責任者へ通知している。また、アンケートの質問項目に対する回答結果及び学生の自由意見を受けて、各教員や科目責任者に報告書を提出してもらい、提出されたものの中から授業改善への効果があるものや他の教員の参考になる事例等を高等教育推進機構のホームページで公表している。

2. 部局の取組み

① 実施体制

a 委員会の設置状況

国際食資源学院 教務・学生委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和2年度は10回開催（各回5～7名が参加）

c 委員会の審議事項等

教育課程及び授業に関する事項

学生の入学及び修了に関する事項

学位論文及び学位審査に関する事項

教育・指導に関する事項

ワンダーフォーゲル実習に関する事項

学生便覧，シラバス，時間割，学事暦等に関する事項

学生の国際交流に関する事項

奨学金に関する事項

学生の懲戒に関する事項

F Dに関する事項

その他教務・厚生補導に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

本学教職員及び学生を対象としたF Dの実施

b 実施方法

講義形式，講演会等の本学教職員を対象としたF Dの実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

F D研修会「大学におけるメンタルヘルスについて」（農学院主催）
（12/2，教員50名（うち国際食資源学院教員2名、事務職員2名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生のメンタルヘルスと教職員のメンタルヘルスは互いにに関わり合うため両方を守る重要性，心の病気の一次，二次，三次予防，学生が相談に来たら批判・アドバイスはせずに傾聴することの重要性や専門科の支援の前に提供すべき支援としてメンタル・ファーストエイド，特に自傷・他害の恐れのある人の生命保護について説明を受けた。

今後の学生とのつながりや職場環境の改善において貴重なものとなる，大学におけるメンタルヘルスの知識やスキルを得た。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

修士課程では，以下（b）のようにそれぞれの授業の最終回に実施しており，博士後期課程も修士課程と同様に実施する。令和2年度は終了した科目がないため，実施対象なし。

b 教員や学生への公開状況，方法等

I・II期の授業はII期終了後に，III・IV期の授業はIV期終了後に，それぞれ集計結果を各教員へ通知している。学生に対しては掲示により公開している。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には，関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には，実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

北海道大学国際食資源学研究院の設置の趣旨・目的は、地球規模で拡大する様々な食資源問題に対し、課題の解決策を多面的に提示できる総合力のあるスペシャリストとして、行動力・問題発見力・課題解決力・企画提案力・牽引力を身に付けた真の国際的リーダーとなる人材を養成することにある。

そのため特定の学問分野に特化した既存の教育組織ではなく、食資源問題に関する様々な学問分野を網羅するために、文系・理系の枠を超えた文理融合型の学際的な教育を実施している。

学生が国内外の最先端の研究現場や食資源問題の現場に滞在しながら経験を積む「ワンダーフォーゲル型実地体験学習・研究」に加え、国内外の研究者と国際基準の研究を行うことにより、世界的なネットワークの中で人材育成を進めてきているところである。特に食水土資源グローバルセンター（GCF）に招へいた海外教員は、本学GI-CoRE連携教員として、本学教員と実施する共同研究ともあいまって、これら取り組みの中核的な役割を果たしてきた。

また、国内外の科学技術研究者および民間企業や国内外の行政機関担当者など、様々な専門分野の実務家等との連携により、専門的かつ多様な教育・研究を進展させており、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」と密接に対応させながら、問題発見のための洞察力と俯瞰力を養う教育を展開しているところである。

平成29年4月に本学院が設置されて以来、修士課程については定員を上回る志願者ならびに入学者を得ており、修士課程修了者も順調に輩出している。平成31年4月に開設された博士後期課程についても、ほぼ順当に推移しており、令和3年度末には最初の課程博士修了生を送り出す。

なお国際食資源学院では令和元年度に自己点検・評価及び外部評価を行い、目的を順当に達成していると評価した。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和元年度に実施した自己点検・評価報告書及び外部評価委員による評価報告書を公表済

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開済

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

本学では、平成27年度に大学評価・学位授与機構（当時）が実施する大学機関別認証評価を受信した。次回は、令和3年度に、大学改革支援・学位授与機構が実施する認証評価を受審する。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。